

会 議 録

会議の名称	令和４年度第２回元市役所本庁舎跡地利用検討協議会
開催日時	令和４年９月２９日（木） 午後３時３０分 から
開催場所	結城市立公民館 ２階 集会室４、５
出席者	委 員 石嶋委員、奥澤委員、土田委員、稲葉委員、孝井委員、木下委員、中村委員、横塚委員、瀧澤委員、久須美委員、初見委員、羽生委員、渡部委員（１３名） ※石川委員、坂本委員欠席 コンサルタント （株）ケー・シー・エス 松本取締役、城平主任 事務局 鶴見企画財務部長、生井企画政策課長、福井課長補佐、古俣主任
議 題	（１）第１回検討協議会の協議結果について （２）施設の事例紹介について （３）意見交換
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
審 議 内 容	（１）第１回検討協議会の協議結果について 意見なし （２）施設の事例紹介について （主な委員意見） ○歴史ミュージアムの建設について考えた際に、市保有の文化財は１０ほどということをお案すると、デジタル等の映像系を駆使して市の歴史を示していくことがよいのではないかと。 ○福井市では福井のまちを結城秀康公が作ったことを市民の方が大切に思っている。結城家４００年１８代という歴史を持つ本市でも、子どもたちにまちの歴史をきちんと教えていくことが必要である。どこのまちでもそうだが、お寺や個人で所有する貴重な文化財があるが、火災にあったら一瞬で消えて無くなってしまふ。また、デジタル系もよいと思うが、現物を見せることも大切である。民間保有の文化財を市で一部お預かりして管理する

ことも考慮すべきであり、そのような観点からも、保存、展示する施設は必要である。

○本市の歴史や地域について学ぶことは大切であり、デジタルを活用して紹介する形態で良いと思う。子育ての面について対応することは大切であり、子どもたちのことを考えた機能を含めた施設としていただきたい。子も親も、また次の世代も、結城に住んで良かった、また住みたいと思われるような、内向きではあるが、そのような施設がよいかと思う。魅力ある施設展示としては、神社の神輿を展示などしてはどうか。

○文化財に指定されている大町山車（屋台）について、現在倉庫においてあるような状態であり、このままだと朽ちてしまうため、その活用についても検討してほしい。

○本市は非常に長い歴史を持つ町だが、資料館やミュージアムといったものがない。観光に来る方からは、どこに資料館はあるのかと聞かれることがあり、案内する方からは対応に苦慮していると聞いている。元市役所の跡地は北部市街地の中心的な場所であり、ここに複合施設として歴史ミュージアムを作っていただき、観光に来た方がまちを散策した後、一休みできるような空間も設けていただきたい。アンケートの意見も大切にしながら、複合施設という形で歴史ミュージアムを造り、多くの市民の方や子どもたちが利用できるような機能を含めて考えてはどうか。

○市役所庁舎が南に移転したことにより、北部市街地における人の流れは従来から変化している。新たな施設を造るうえでは、市民が利用しやすい施設であることに加え、外部から人を呼び込み、北部市街地の活性化につながるものとして、検討していただきたい。

○市内にある施設を確認してみると、規模は様々だが、図書館、多目的スペース、物産センター、市民ギャラリー、子育て支援センターと、市内にはほぼ設置されている。それを踏まえると、資料館や展示の場はないため、必要である。体験型の展示とすればリピーターも期待でき、内容によっては子どもたちから大人まで集まれるのではないか。また、児童館も本市にはないため、規模は児童館とまではいかなくとも、子どもセンターのような機能を複合施設の中に入れていただきたい。子どもがあつまれば親も集まるので、展示、体験、交流が一体となった複合施設が望ましいと思う。

○先日、最近できた日立製作所の歴史ミュージアムであるオリジンパークという施設を見学してきたが、入るとすぐに映像系のコンテンツがあり、

内部の展示も、自ら手元の端末で操作した内容が大きなスクリーンに表示され、自分も参加していくといった、デジタル体験を組み込んだ興味が引かれる内容であった。展示だけではなく、やはりこのようなデジタル技術は今後のミュージアムには必要だと思う。

○先ほどのご意見にもあったように、本庁舎が移転してから、駅北口の通りは人の往来が本当に減ってきた。そういったことを踏まえ、如何に市外からの観光客を呼び込むかということも、歴史ミュージアムを核とした複合施設の内容に考えていくことが必要だと思う。

○今の子どもたちは生まれた時からスマートフォンがあり、デジタル技術に触って、自分で操作したり調べたりということも、とても興味があるのではないかと。逆に、お神輿や紬など、実物が展示してあり、それを見ることも大切だと思う。市外から来た保護者の方が結城のことを知らないということは残念なことで、その方々がこの施設を利用し、子どもも成長に合わせて使い続けていけることが必要ではないか。また、未就学児の遊ぶ場は市内にたくさんあるが、小学生以上の子どもたちが、下の子と遊ぶ場がないといった意見や、テレワーク等により父親が母親に代わり子育てに参加する機会も増えてきていることから、配慮してほしいといった意見も聞いている。市で行っている結城紬の着付け体験に子どもたちが影響を受け、修学旅行先でも着付け体験をした話を聞き、子どもたちも含め、結城に住んでいる人はもっとまちのことを知るべきであるし、知ってほしい。そのような取り組みをしていくことが大人たちの義務ではないかと思う。

○文化財一覧の資料を見ると、確かに神社仏閣の所有が大半のため、これを展示するのは難しいかと思う。そのため、先ほどのデジタル技術を生かせることも良いと思う。またはレプリカを展示してもよいのではないかと。歴史ミュージアムの展示としては、過去の歴史だけではなく、現在、未来へと繋げ、結城市が目指していく姿まで、すべてが分かるというものができるとよいと思う。

○元市役所跡地の活用を考えた際に、歴史ミュージアムを建築することでは、観光の振興や北部市街地の活性化には繋がらないと思う。また、北部庁舎の利用状況は1日2件にも満たず、莫大な費用が予想される複合施設の建築にかかる財源は、よく検討しなければいけないと思う。公共施設の利用計画を踏まえ、既存施設の合理化を考えていくとともに、市民アンケートの結果にある、子育て関連の施設、財政負担の圧縮化といった点は考慮しなければいけない。しかしながら、歴史資料館は行政の役割として重要と考えられ、展示内容等もデジタル化を活用してある程度補えると思っ

	ている。そのため、今後提出する意見書には、跡地利用方針に沿った将来の計画を踏まえつつ、財政状況を考慮し、将来世代の負担を強いることがないように十分配慮したものとして、まとめていければいいのではないか。
問 合 せ 先 (事務局)	結城市役所 企画財務部 企画政策課 政策調整係 T E L 0296-34-0404 (内線) 2051 F A X 0296-32-7123 e - m a i l kikaku@city.yuki.lg.jp
そ の 他	